



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課

TEL 0993-52-1359

南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-22-6422

新規就農者の門出を祝う会と各種研修会を開催

1 指宿市ニューファーマーの集い

担い手農家が年々減少する中、新規就農者の確保・育成が重要な課題になっています。新規就農者の門出を祝う「指宿市ニューファーマーの集い」を5月31日に、なのはな館で開催しました。

平成30年度に就農した12名中6名が参加し、3組は夫婦での参加でした。

新規就農者の身近で農業技術や経営管理の助言をしてくださる指導農業士や、女性農業経営士、農業青年クラブ員、JAいぶすき青年部長も参加し、各組織の活動紹介を行いました。

また、指宿市、JAいぶすき、農政普及課から新規就農者の支援策紹介や、平成26年に就農し昨年12月に法人化した女性農業者の事例発表も行いました。

「農業は、運と勘とタイミングが大事。農業を心から好きになって、楽しみながら頑張ってほしい。」とアドバイスがありました。



写真2 52名の関係者が新規就農者の門出を祝う

2 新規就農者向け各種研修会

新規就農者を対象に、土壌肥料や病害虫等の基礎講座、オクラ・そらまめ・えんどう類のニューファーマー講座、パソコン複式簿記記帳会（初心者向け）等を開催して、農業技術や経営管理能力の向上を支援しています。



写真1 今後の抱負を語る新規就農者



写真3 オクラ畑で指導農業士がアドバイス

全国お茶まつりの開催に向けて

1 全国お茶まつりとは

全国お茶まつりは、全国のお茶の関係者が一同に集い、年に一度開催され、全国の茶産地から出品されたお茶の審査によりその生産技術を競う全国茶品評会や、お茶にまつわる展示、茶消費拡大PRなどが行われる日本茶業界の一大イベントです。

この全国お茶まつりが、来年(2020年)の11月に南九州市で開催されます。鹿児島県での開催は、9年ぶりとなり、東京オリンピックやかごしま国体の開催と重なることから、南九州市では、生産者、関係機関一体となり大会の成功に向け様々な取組を進めています。

2 知覧茶の魅力伝える新しい試みを

全国お茶まつりでは、全国各地の開催地が様々な趣向をこらして、生産者の意欲向上と消費者へのお茶の魅力発信が行われてきました。

南九州市では、お茶を生産する女性や若手の代表などで構成された「全国お茶まつりあり方検討委員会」を設置し、時代に対応した新しい試みのある大会となるよう話し合いを進めています。

その中で、生産者向けに充実した研修会を開催すること、南九州市の食や観光を通じて全国各地からの参加者へ「知覧茶」の魅力を発信することなどが提案され、大会準備委員会にて具体的なイベント内容の検討が進められています。



写真1 あり方検討会でグループ討論

3 大会ユニフォームで一致団結

大会をきっかけに茶業関係者の一体感を図るため、知覧茶ユニフォームが作成されました。市内在住のデザイナーがデザインし、胸元には市のゆるキャラ「お茶むらい」が、背中には知覧茶銘柄統一を記念して作成された「知覧茶ロゴマーク」がプリン

トされています。

このユニフォームは、大会当日だけでなく、開催までの様々な取組の際に、揃って着用し、大会の開催と知覧茶のPRに活用しています。



写真2 知覧茶ユニフォーム

4 品評会で上位入賞を目指して

玉露・てん茶や手摘みにもチャレンジ

全国お茶まつりは、お茶の品質を競い合い、様々な茶種の品質日本一を決める大会でもあります。南九州市を始めとする鹿児島県の茶産地では、機械摘みによる普通煎茶を中心に出品が行われていますが、南九州市では、大会開催に合わせ、新たな茶種への出品にもチャレンジしています。

市内でも生産が行われている、高級茶の代名詞「玉露」や抹茶の原料となる「てん茶」のほか、同市では17年ぶりとなる手摘み部門への出品にも今年度より取り組みました。

どの部門も今年は試行錯誤の段階でしたが、確認することのできた様々な改善点をもとに、来年の全国大会本番での上位入賞を目指し頑張っています。



写真3・4 手摘みによる収穫作業(左)
抹茶の原料となる「てん茶」(右)

ピーマン栽培におけるスマート農業

1 南薩地域のピーマン栽培

南薩地域では、南さつま市加世田地区と南九州市穎娃地区でピーマンの施設栽培が行われ、平成30年産は446tの生産量がありました。歴史ある産地ですが、県内他産地に比べて規模は小さく、今後の産地活性化のためには単収向上による経営改善が欠かせません。

2 スマート農業とは？

鹿児島県では、今年度「スマート農業推進方針」を策定し、農業の抱える様々な問題を解決する手段として、ロボット技術やICT等の先端技術を活用した新しい農業である、「スマート農業」を推進しています。

3 ピーマンでの活用事例

前述の県推進方針では、本県スマート農業の将来像の1つとして、「作物の能力を最大限に発揮する園芸施設の実現」を掲げており、ピーマン栽培での活用を図りつつあります。



写真1 環境測定装置と炭酸ガス発生機

(1) ハウス内環境データの分析・活用

従来から生産者は、温度計や暖房機のセンサー等を活用して、各ハウスの温湿度を見ながら管理作業をしてきました。これらは生産者個々人の経験と勘によって行われてきました。これに代わるものとして、現在では様々な環境測定装置が市販されています。これらは温度、相対湿度、絶対湿度を表す飽差、地温、日射量、炭酸ガス濃度等をリアルタイムで測定し、データはスマホなどで見ることができ、過去のデータはクラウドからいつでも取り出すことができる装置です。これ

らの導入により、生産者は各ハウス毎のピーマン栽培に最適な環境を作り出すためのヒントを得て、勘に頼らない「我が家のマニュアル」を作上げることができます。

(2) 環境制御への取り組み

前述の環境測定装置で得られるデータを基に、ハウス内の環境を最適にする技術のことを「環境制御技術」と言います。今年度、「南薩地域ピーマン環境制御協議会」が発足し、県の補助事業を活用して4戸の生産者が環境制御技術に取り組みます。具体的な活動は、環境測定を生かした栽培方法の改善、研修会や検討会の実施、生育状況調査、県外先進地への視察研修等で、今後の成果が期待されます。

(3) 管内の活用事例

環境制御技術と、光合成を促進する炭酸ガス施用技術を組み合わせた栽培に取り組み、数年かけて単収が約4t/10a向上した事例があります。この例では、10aあたりの所得が約68万円増加している計算となり、今後の可能性が示されています。

(4) 導入における注意点

前述の単収向上が図られた例でも、単純に機器を導入しただけでは効果は上がりません。機器導入と併せて以下の点についてこまめに改善を行いました。

ア 土壌改良

わらやもみ殻の投入、排水性の改善
イ 測定データによる管理方法の改善

データによって暖房機やハウス開閉設定、二重被覆の開閉を常に修正。

ウ かん水方法の改善

数日おきにかん水する従来の方法から、その日の日射に応じて水量を変える方法に変更。

エ 肥培管理の改善

体内窒素イオン濃度や収量、土壌ECを見ながら追肥量を常に修正。

その他、あらゆる栽培管理を見直し、改善することが成功へのポイントとなります。

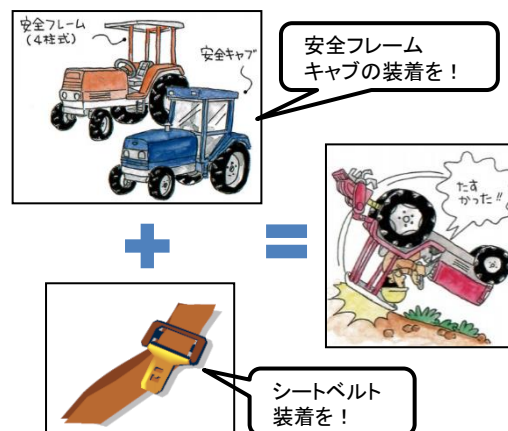
秋の農作業事故ゼロ運動展開中(9/1～10/31)

農作業中の死亡事故は全国で年間300件以上発生しており、就業人口ベースで見ると、農業は建設業の約3倍も多く死亡事故が発生しています。鹿児島県では、平成26年～30年の5年間で73件の農作業中の死亡事故が発生しており、「高齢者の割合が高い」「農業機械の事故が多い」「春・秋の農繁期に多い」等の特徴があります。

このため、県では農繁期の9月～10月を「秋の農作業事故ゼロ運動」月間として、広く県民へ農作業事故の未然防止と安全対策の周知徹底を図っています。

下記の啓発事項と併せて、体調管理や周囲の方

々への声かけを意識して、安全な農作業に取り組みましょう！



○令和元年秋の農作業事故ゼロ運動スローガンと啓発事項

まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全

- (1) 農作業前の**安全確認と作業環境の改善**に努め、ヒヤリハットをなくそう
- (2) トラクタに**安全フレーム**を装着し、運転時には**シートベルト、ヘルメット**を着用しよう
- (3) 路肩まで草刈りを行い、**路面と側溝等との境界を把握**できるようにしよう
- (4) 機械の詰まりを取り除く際は、**機械の動作が静止してから取り除こう**
- (5) **こまめに水分補給**を行い、熱中症に気をつけよう
- (6) もしもの備えに**労災保険に加入**しよう

稲WCSの栄養と給与方法について

1 稲WCSとは？

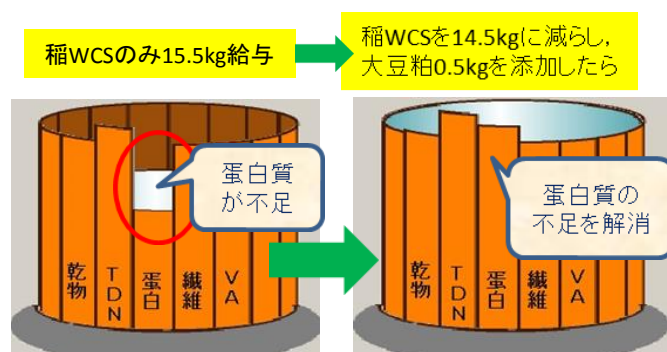
稲WCS(稲ホールクロップサイレージ)とは、子実が完熟する前に稲を刈り取り、穂と茎葉を丸ごとサイレージ化(発酵)したもののことです。

2 各家畜に対する

稲WCS給与の注意点

(1) 肉用牛繁殖

稲WCSのみを給与した場合、タンパク質含量が少ないので、単体での給与を避け、



高タンパク質飼料(大豆かすなど)を補給するようにしてください。

(2) 肉用牛肥育

β-カロテン含量の変動が大きいので、ビタミンAの影響が比較的少ない肥育前期と後期に給与するようにし、ビタミンAの影響が大きい肥育中期の給与はさけるようにしましょう。

(3) 乳用牛

泌乳初期から中期にかけては、乾物中の30%以下での利用が望ましいです。泌乳中期から後期にかけては、稲WCSの給与割合を高めることができますが、エネルギー摂取過剰に留意しましょう。切断長は1.5cm～3cmが目安になります。低カリウムで乾乳期に適した飼料です(産後の代謝疾患予防に有効)。乾乳期の稲WCSの馴致は、分娩前30日までに実施するようにしましょう。